

授業科目	英会話 I		単位／時間	1/15
開講学科等	子ども未来学科 1 年		担当教員	福本みちる
授業の目的・テーマ	保育士として様々な場面で役に立つ英語を学びつつ、仕事で英語を使う大切さについて考える。			
授業の到達目標	実践的な英語に触れることにより、英語に自信をつける。			
授業の計画	1	Class Introduction	26	
	2	Unit 1: Self-Introduction	27	
	3	Unit 2: Directions and Places	28	
	4	Unit 3: Greetings	29	
	5	Unit 4: Daily Activities I, Crafting	30	
	6	Unit 5: Daily Activities II, Going for a Walk	31	
	7	Unit 6: Daily Activities III, Playing Outside	32	
	8	Unit 7: Food	33	
	9	Unit 8: Nap Time	34	
	10	Unit 9: Useful English Expressions	35	
	11	Unit 10: School Events	36	
	12	Unit 11: Time and Daily Plans	37	
	13	Unit 12: Health	38	
	14	Unit 13: Telephone Conversation	39	
	15	Unit 14: Revision	40	
	16		41	
	17		42	
	18		43	
	19		44	
	20		45	
	21		46	
	22		47	
	23		48	
	24		49	
	25		50	
授業の方法	英会話練習、リスニング練習、応用			
テキスト/参考文献	Happy English for Childcare, Maiko Tsuchiya, Kinseido, ISBN978-7647-4008-2			
評価の方法や基準	授業中の態度（20％）、テキスト提出（15％）、振り返り（15％）期末試験（50％）			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方				○
実務経験	高校講師、塾講師など			
実務経験の活かし方	コースの初めと同じに「保育士に英語は必要か」について意見を書いてもらい、授業を通して生徒に考えてもらう。毎時間、その時間で学んだことの振り返りをする時間を設ける。			

履修上の 注意事項	
--------------	--

授業科目		英会話 I (SC)	単位／時間		1/15
開講学科等		子ども未来学科	担当教員		福本みちる
授業の目的・テーマ		英会話Iで学んだことの振り返り。実践的な英語に触れることにより、英語に自信をつける。			
授業の到達目標		英会話Iで学んだことの振り返りを通して、プレゼンテーション（紙芝居、絵本、歌）などを準備し、発表、フィードバックをおこなう。実習に持って行ける英語のポスターなどを作成する。			
授業の計画	1	Childcare English I: Revision	26		
	2	Childcare English II: Revision	27		
	3	Presentation: Introduction	28		
	4	Presentation: Preparation	29		
	5	Presentation: Preparation	30		
	6	Presentation: Preparation	31		
	7	Presentation and Feedback	32		
	8	Presentation and Feedback	33		
	9	Childcare English III: Revision	34		
	10	Childcare English IV: Revision	35		
	11	Introducing English to Children	36		
	12	Making Posters	37		
	13	Making Posters	38		
	14	Making Posters and Feedback	39		
	15	The end of the Course Test and Feedback	40		
	16		41		
	17		42		
	18		43		
	19		44		
	20		45		
	21		46		
	22		47		
	23		48		
	24		49		
	25		50		
授業の方法		英会話練習、リスニング練習、英語プレゼンテーション			
テキスト/参考文献		Happy English for Childcare, Maiko Tsuchiya, Kinseido, ISBN978-7647-4008-2			
評価の方法や基準		授業の態度（10%）、（プレゼンテーション（30%）、ポスター作成（30%）、筆記テスト（30%）			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記す。					○
実務経験		高校講師、塾講師など			
実務経験の活かし方		英会話Iの振り返り プレゼンテーション（紙芝居、絵本、歌）やポスター作成の指導をしつつ、ガイドラインに沿った発表をさせる。			

履修上の 注意事項	
--------------	--

授業科目	健康科学	単位／時間	1 / 15
開講学科等	子ども未来学科1年	担当教員	神家 美穂
授業の目的・テーマ	スポーツの意義や現代的課題について、知識・関心を深め健康と運動の関わりについて学ぶ。		
授業の到達目標	生涯を通じた健康づくりや体力づくりの基礎となる身体活動・スポーツの重要性を学び事故の健康観を見直すとともに、効果的な運動実践を習得することを目指す。		
授業の計画	1	オリエンテーション	26
	2	スポーツの語源	27
	3	スポーツの歴史的理解	28
	4	余暇とは	29
	5	余暇社会とスポーツ	30
	6	地域社会とスポーツ	31
	7	学校スポーツの問題点	32
	8	職場スポーツの問題点	33
	9	商業主義とスポーツ	34
	10	地域スポーツと施設	35
	11	地域スポーツと指導	36
	12	国民スポーツの組織と新スポーツ	37
	13	身体運動と健康	38
	14	運動処方	39
	15	トレーニングの科学的基礎	40
	16		41
	17		42
	18		43
	19		44
	20		45
	21		46
	22		47
	23		48
	24		49
	25		50
授業の方法	講義		
テキスト/参考文献	生涯スポーツ・健康科学（近畿大学九州短期大学・通信教育学部編）		
評価の方法や基準	レポート・筆記試験・出席率		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と活かし方を記載する			○
実務経験	非常勤講師（保育所・認定こども園）		
実務経験の活かし方	園で実践している健康づくりや体力づくりの指導・援助の事例を講義の中で取り上げることによって、具体的なイメージをもてるようにする。		
履修上の注意事項	テキスト必携		

授業科目	情報処理入門Ⅰ（PC実習編）	単位／時間	1/15
開講学科等	子ども未来学科1年	担当教員	佐々木 匡世
授業の目的・テーマ	Word、Excel、PowerPointの基本操作を学習し、社会に出て十分にパソコンが利用できる基礎知識、操作スキル、情報リテラシー能力を養成する		
授業の到達目標	Word、Excel、PowerPointの基本的な操作ができ、目的に応じた文書等を効率的に作成できる		
授業の計画	1	校内LANと学習環境について	26
	2	Windowsの基本操作	27
	3	Word:文書の作成と印刷(1)	28
	4	Word:文書の作成と印刷(2)	29
	5	Word:グラフィック機能の利用(1)	30
	6	Word:グラフィック機能の利用(2)	31
	7	Word:表の作成(1)	32
	8	Word:表の作成(2)	33
	9	Excel:表の作成,表計算機能(1)	34
	10	Excel:表の作成,表計算機能(2)	35
	11	Excel:グラフの作成(1)	36
	12	Excel:グラフの作成(2)	37
	13	Excel:データベース機能	38
	14	PowerPoint:プレゼンテーションの作成(1)	39
	15	PowerPoint:プレゼンテーションの作成(2)	40
	16		41
	17		42
	18		43
	19		44
	20		45
	21		46
	22		47
	23		48
	24		49
	25		50
授業の方法	パソコン実習		
テキスト/参考文献	よくわかるWord2024&Excel2024&PowerPoint2024		
評価の方法や基準	期末試験（実技）、授業態度、提出課題（提出回数、達成度）		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○
実務経験	ICT企業での営業・インストラクタ業務、専門学校でのICT科目の指導		
実務経験の活かし方	多種多様なインストラクタ業務や授業の指導から得た経験と知識を、授業時間内での目標到達までの効率的な工程の見極めと受講生への的確な指導・アドバイスに活かします。		
履修上の注意事項	・指示された課題は、締切り厳守で提出してください。 ・技能習得以外にも、授業態度を評価に含めています。積極的な参加はもとより、授業中に私語・居眠り等をしないよう十分に気を付けてください。		

授業科目	情報処理入門Ⅰスクーリング（講義編）	単位／時間	1/15
開講学科等	子ども未来学科1年	担当教員	佐々木 匡世
授業の目的・テーマ	・コンピュータの基礎知識・ネットワーク社会における通信技術の仕組みやさまざまな社会問題を理解し、正しい知識を身に付け、安全なコンピュータ・ネットワークの利活用ができる ・目的に応じたソフトウェアを使用した実用的な文書が効率的に作成できる		
授業の到達目標	・日常使われているコンピュータや情報処理に関する基礎知識、用語の概念を正しく理解する ・ネットワーク社会における様々なトラブルや犯罪に巻き込まれないための知識とモラルを身につける ・実用的な文書の作成ができる		
授業の計画	1	情報処理の基礎	26
	2	コンピュータの発展と歴史	27
	3	コンピュータシステム	28
	4	コンピュータシステムの構成・ハードウェア	29
	5	ソフトウェアの種類と役割	30
	6	コンピュータネットワーク基礎	31
	7	情報化社会の問題点	32
	8	インターネットの仕組み	33
	9	インターネット関連の法規	34
	10	インターネット利用者のモラルと心構え	35
	11	情報セキュリティ	36
	12	実用文書・データの作成(1)	37
	13	実用文書・データの作成(2)	38
	14	実用文書・データの作成(3)	39
	15	学習のまとめと確認テスト	40
	16		41
	17		42
	18		43
	19		44
	20		45
	21		46
	22		47
	23		48
	24		49
	25		50
授業の方法	講義・パソコン実習		
テキスト/参考文献	近畿大学通信教育部テキスト		
評価の方法や基準	確認テスト（実技）、出席率		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○
実務経験	IT企業での営業・インストラクタ業務、専門学校でのICT科目の指導		
実務経験の活かし方	多種多様なインストラクタ業務や授業の指導から得た経験と知識を、授業時間内での目標到達までの効率的な工程の見極めと受講生への的確な指導・アドバイスに活かします。		

履修上の 注意事項	情報処理入門Ⅰ（PC実習）の受講生を対象とする
--------------	-------------------------

授業科目	日本国憲法		単位／時間	2 単位/ 3 0 時間
開講学科等	子ども未来学科 1 年		担当教員	佐藤 章
授業の目的・テーマ	①日本国憲法の理念、特色、三大基本原理を理解する。②憲法に定められている、国会、内閣、裁判所の仕組みを理解し、国の様々な政策について関心を持ち、その内容を理解できるようになる。③日常生活や職場での諸課題を、規則や法律に基づいて処理、解決することができるようになる。④主権者として、選挙権の行使の際等に、政治的な判断ができるようになる。			
授業の到達目標	①日本国憲法の理念、特色、三大基本原理について、国民の基本的人権がどのように保障されているのかを理解する。②国会、内閣、裁判所の仕組みを理解し、国会で決められている法律や予算が国民の生活にどのように影響し、改善されているのかを学び、政治や経済政策に関心を持つことができるようになる。③社会的な事件や問題が法的にどのように解決されているのかを学び、日常生活や職場での諸課題の解決に生かすことができるようになる。			
授業の計画	1	第一章現代の憲法 I 憲法とは何か 1 ～ 3	26	IV 裁判所 1 司法権
	2	I 憲法とは何か 4 ～ 6	27	IV 裁判所 2 裁判所の組織 3 違憲審査制
	3	II 日本国憲法の制定 1 ・ 2	28	IV 裁判所 4 裁判の公開 ・ V 地方自治 1 地方自治の保障
	4	II 日本国憲法の制定 3 ・ 4	29	V 地方自治 2 地方公共団体 ・ 3 地方公共団体の組織と権能
	5	第二章 I 国民主権、II 象徴天皇	30	第六章憲法の保障と改正 I 憲法の保障 ・ II 憲法改正
	6	第三章平和主義 I 平和主義の現実	31	
	7	II 平和主義と国際貢献、III 憲法第 9 条と集団的自衛権	32	
	8	第四章基本的人権 I 基本的人権とは何か 1 ～ 3	33	
	9	II 包括的基本権 1 個人の尊重と生命・自由・幸福追求権 2 法の下の平等	34	
	10	III 精神的自由権 1 思想・良心の自由 ・ 2 信教の自由	35	
	11	III 精神的自由権 3 学問の自由、4 表現の自由	36	
	12	IV 経済的自由権 1 職業選択の自由、2 財産権の保障	37	
	13	V 社会権 1 生存権 ・ 2 教育を受ける権利	38	
	14	V 社会権 3 労働の権利 ・ 2 労働基本権	39	
	15	VI 人身の自由と刑事手続きの保障 1 一般原則 ・ 2 被疑者の権利	40	
	16	VI 人身の自由と刑事手続きの保障 3 拷問・残虐な刑罰の禁止 ・ 4 刑事被告人の権利	41	
	17	VII 国務請求権 1 裁判を受ける権利 ・ 2 国家賠償請求権	42	
	18	VII 国務請求権 3 刑事補償請求権 ・ 4 請願権	43	
	19	VIII 参政権、IX 国民の義務	44	
	20	第五章統治機構 I 統治機構の原理	45	
	21	II 国会 1 国会の地位 ・ 2 国会の構成	46	
	22	II 国会 3 国会と議院の権能	47	
	23	II 国会 4 国会の運営	48	
	24	III 内閣 1 内閣と国会の関係 2 内閣の組織	49	
	25	III 内閣 3 内閣の権能	50	
授業の方法	一斉講義形式、グループワーク等			
テキスト/参考文献	近畿大学九州短期大学通信教育部編『日本国憲法』			
評価の方法や基準	レポート 50%、試験 50%			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				○
実務経験	高知県立高等学校社会科教員（倫理、現代社会、政治・経済、日本史、世界史、地理）、徳島文理大学教員（倫理学、教職科目）			
実務経験の活かし方	日本国憲法や法律が国民生活の諸課題の解決の役立ち、社会が改善に向かっているかを、関連するニュースや事例を提示して理解を深めてもらうよう、指導、支援を行う。			
履修上の注意事項	①教科書、講義レジュメ、ノート、配付資料は毎時間持参して下さい。②グーグルクラスルームを活用します。毎回講義の出席確認と振り返り、必要に応じて、講義レジュメ、レポート、確認問題等の様式送付や週の間に連絡事項がある場合にも送らせてもらいます。またレポートも頻繁に出してもらいます。			

授業科目	幼児と音楽表現（スクーリング）	単位／時間	1 / 15（声楽を含む）
開講学科等	子ども未来学科1年	担当教員	大野 美寿鈴
授業の目的・テーマ	基礎的な楽典、ソルフェージュの学習で読譜力を養い実技を通してピアノ演奏法の基本を学び簡単な弾き歌いを習得する。		
授業の到達目標	ピアノ演奏技術の向上、ハ長調、ト長調、ニ長調、ヘ長調の音階と、主要三和音を習得し記録表「幼児と音楽表現」を終了し合格を目指す。		
授業の計画	1	ガイダンス	26
	2	個人レッスン	27
	3	↓	28
	4	↓	29
	5	実技試験①	30
	6	↓	31
	7	↓	32
	8	評価（全体・個人・アドバイス）	33
	9	個人レッスン	34
	10	↓	35
	11	↓	36
	12	実技試験②	37
	13	↓	38
	14	↓	39
	15	評価（全体・個人・アドバイス）	40
	16		41
	17		42
	18		43
	19		44
	20		45
	21		46
	22		47
	23		48
	24		49
	25		50
授業の方法	個人レッスン・実技試験		
テキスト/参考文献	ピアノ教本（近畿大学九州短期大学）		
評価の方法や基準	実技試験 授業態度		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○
実務経験	高等学校（音楽科）・短期大学（幼児教育科）・専修学校等での長年に至るピアノ指導と演奏活動		
実務経験の活かし方	ピアノ初心者にも丁寧にわかりやすく導く。各自の資質と能力に応じた指導を心掛け更なる成長を促す。		
履修上の注意事項	毎回与えられた課題を必ず毎日練習することによって各段階の記録表の課題曲を終了しておくこと		

授業科目	教育心理学SC		単位／時間	1単位／15時間
開講学科等	子ども未来学科1年		担当教員	津江 美和
授業の目的・テーマ	乳幼児期の発達と学習の特徴について、基本的かつ現場で必要となる内容を理解していく。子ども達が充実感をもって安心して楽しく生活し、遊びを通して主体的に学ぶためには、保育者はどのような援助が可能であるのか。教育心理学の知見を活かしてほしい。			
授業の到達目標	①保育者にとって、教育心理学を学ぶ意義を知る。②発達、学習、動機づけ、記憶、集団と教師の役割などについて、基礎的知識を身につける。③事例を通して、さまざまな子どもへの関わりを考える。			
授業の計画	1	初期の発達（臨界期と敏感期）	26	
	2	母性的養育（愛情と人間らしさ）	27	
	3	事例考察：園では乱暴な子	28	
	4	観察学習と洞察学習	29	
	5	続く行動と行動随伴性	30	
	6	事例考察：遊びに入れない子	31	
	7	動機づけ（内発的動機づけと知的好奇心）	32	
	8	記憶（長期記憶への転送）	33	
	9	事例考察：課題に興味を示さない子	34	
	10	身体機能と知的機能	35	
	11	情緒と社会性	36	
	12	言語機能と社会性	37	
	13	学級集団（教師とピグマリオン効果）	38	
	14	特別支援教育	39	
	15	事例考察：発達障害のある子の就学	40	
	16		41	
	17		42	
	18		43	
	19		44	
	20		45	
	21		46	
	22		47	
	23		48	
	24		49	
	25		50	
授業の方法	①基礎的知識についての講義②事例考察での考察とグループ討議			
テキスト/参考文献	伊藤健次（編）「保育に生かす教育心理学」（株）みらい 2008年			
評価の方法や基準	①授業への積極的参加（30%）②課題への記述（40%）③小テスト（30%）			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				○
実務経験	小学校教諭（常勤5年）、幼稚園教諭（常勤6年）、カウンセラー等（非常勤3年）			
実務経験の活かし方	基礎的知識の講義においては、実際に現場で活用できる内容を厳選する。事例考察においては、現場で課題となることが多いであろうことについて取り上げ、学生の考察を促し、解説する。			

履修上の 注意事項	事前と事後には教科書や配布資料を読み、主体的に学ぶ姿勢を大切にされたい。自分の将来の姿を思い描きながら、興味をもって参加されたい。
--------------	---

授業科目	幼児の心理学	単位／時間	1 / 15
開講学科等	子ども未来学科 1 年	担当教員	津江 美和
授業の目的・テーマ	教育という場で生じる種々の要因と心への影響を概観する。幼児期を中心に人間の発達とその特徴について理解してゆく。		
授業の到達目標	子どもが安心感を持ちつつ学習効果を上げ、学校生活を過ごすことについて、考察を深める。それぞれの発達段階と課題について、特徴を述べる事が出来る。		
授業の計画	1	教育心理学と保育	26
	2	臨界期と環境	27
	3	第一反抗期とその理解	28
	4	Piagetの認知発達段階	29
	5	レスポndent学習とオペラント学習	30
	6	記憶の種類と記憶方略	31
	7	パーソナリティと性格検査	32
	8	知能と学力	33
	9	内発的動機付けと外発的動機付け	34
	10	相対評価と絶対評価	35
	11	発達障害と支援	36
	12	保育と集団	37
	13	小学校との連携	38
	14	愛着、基本的信頼感	39
	15	特別支援教育とは	40
	16		41
	17		42
	18		43
	19		44
	20		45
	21		46
	22		47
	23		48
	24		49
	25		50
授業の方法	講義形式であるが、学生の意見発表の場も設けたい。		
テキスト/参考文献	「保育に生かす教育心理学」伊藤健次		
評価の方法や基準	期末試験（80％）と学習態度（意見発表や考察記述や家庭学習：20％）		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する。			○
実務経験	小学校教諭、幼稚園教諭、カウンセラー等		
実務経験の活かし方	心理的要因と学習効果の関係などについて、事例をまじえて解説する。		
履修上の注意事項	将来の自分の立場、すなわち子どもと保護者を支援する姿を常に思い描きながら、毎時間の授業に取り組んでほしい。		

授業科目	幼児と言葉	単位／時間	1 / 15
開講学科等	子ども未来学科1年	担当教員	川上 季衣
授業の目的 ・テーマ	・人間にとっての話言葉や書き言葉などの『言葉』の意義と機能について理解する。 ・言葉の発達について発達段階に沿って学び、保育者としての関わり方を知る。 ・保育における絵本の役割について学び、絵本の選び方、読み方の技術を身につける。		
授業の到達目標	言葉の発達について学び、子どもが豊かな表現を身につけ、想像する楽しさを広げるための保育者としての関わり方や技術を身につける。		
授業の計画	1	オリエンテーション	26
	2	第1章人間と言葉	27
	3	〃	28
	4	第2章言葉を育む	29
	5	〃	30
	6	第3章言葉の発達	31
	7	〃	32
	8	振り返りテスト	33
	9	第4章領域言葉とは	34
	10	〃	35
	11	第5章言葉の豊かさ	36
	12	〃	37
	13	振り返りテスト	38
	14	言葉遊び	39
	15	言葉遊び	40
	16		41
	17		42
	18		43
	19		44
	20		45
	21		46
	22		47
	23		48
	24		49
	25		50
授業の方法	座学 グループワーク 実技（絵本を選ぶ・絵本を読む）		
テキスト／参考文献	幼児と言葉 （近畿大学九州短期大学）		
評価の方法や基準	ミニテスト 2回 （60%） レポート （30%） 授業中の参加の様子（質問、発表など） 10%		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○
実務経験	保育所 幼稚園 認定こども園		
実務経験の活かし方	言葉の発達に対する知識と子どもと豊かにコミュニケーションをとるための工夫や技術について事例を交えつつ授業を行う		

履修上の 注意事項	
--------------	--

授業科目	幼児と人間関係	単位／時間	1 単位 / 15 時間
開講学科等	子ども未来学科 1 年生	担当教員	山下 昌世
授業の目的・テーマ	領域『人間関係』より子どもを取り巻く人間関係の現状を把握し、支援が必要なポイントを把握する。また、発達過程に応じた人との関わりについて考え、子どもの成長と向き合う。		
授業の到達目標	領域『人間関係』に関する知識を得、子ども個人の成長と、仲間集団の成長との双方に配慮しながら具体的な指導を行う実践力の基礎を培う。		
授業の計画	1	「幼児と人間関係」 学習ガイダンス	26
	2	領域「人間関係」の社会的背景	27
	3	子どもの発達と人間関係	28
	4	領域「人間関係」のねらいと内容①	29
	5	領域「人間関係」のねらいと内容②	30
	6	保育者のかかわり方と集団作り	31
	7	対話から生まれる「共同的な学び」	32
	8	幼児教育・保育における子ども同士の関係①	33
	9	幼児教育・保育における子ども同士の関係②	34
	10	子どもとのかかわりを通した幼児理解と評価①	35
	11	子どもとのかかわりを通した幼児理解と評価②	36
	12	特別な支援を必要とする子どもの援助	37
	13	子どもの家庭背景を踏まえた幼児教育・保育の視点①	38
	14	子どもの家庭背景を踏まえた幼児教育・保育の視点②	39
	15	まとめ	40
	16		41
	17		42
	18		43
	19		44
	20		45
	21		46
	22		47
	23		48
	24		49
	25		50
授業の方法	一斉授業・レポート		
テキスト/参考文献	幼児と人間関係（同文書林）		
評価の方法や基準	学習した事例内容からレポート試験、平素の学習態度（出席状況を含む）		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○
実務経験	幼稚園教諭		
実務経験の活かし方	幼児教育現場での実際の事例を用いて具体的説明による理解や、これまでの専門学校・短大での教員歴を活かした授業を通して専門職としての向上を目指す学生を育成する。		

履修上の 注意事項	求められた意見に積極的に答え、学習意欲を高める。
--------------	--------------------------

授業科目	幼児と環境	単位／時間	1 単位/15時間
開講学科等	子ども未来学科 1 年	担当教員	岡田 慶子
授業の目的・テーマ	人と環境の深いつながりを多面的（人的・物的環境、社会的環境、自然環境）にとらえて、特に子どもを取り巻く環境の大切さや深さを科学の目や人の心を通して学ぶ。		
授業の到達目標	幼児教育の基本及び「環境」のねらいと内容を理解する。環境は、多面的であることの理解を深める。環境が人々（子どもを主体に）の暮らしや心と深く結びついていることを学ぶ。人々（子どもを主体に）の健康と関連した環境問題をより深く理解できる。自分自身（子どもの目を主体に）が解決できる環境問題や疑問についてを模索し、実行する。		
授業の計画	1	オリエンテーション	
	2	領域「環境」について知る	
	3	子どもを取り巻く環境	
	4	身近な環境とのかかわりと感性の育ち	
	5	モノとのかかわりを通して生まれる育ち（学び）	
	6	自然とのかかわりを通して生まれる育ち（学び）	
	7	社会とのかかわりを通して生まれる育ち（学び）	
	8	保育における「領域」の意義と領域「環境」のねらい及び内容	
	9	乳児保育における「環境」とのかかわり	
	10	モノとのかかわりを支える保育の展開	
	11	自然とのかかわりを支える保育の展開	
	12	社会とのかかわりを支える保育の展開	
	13	領域「環境」と小学校教育のつながり	
	14	環境における現代的課題と保育	
	15	共に環境を創造する「創り手」としての子ども・保育者・保護者の育ちあい	
授業の方法	講義、グループワーク、ロールプレー、視聴覚教材		
テキスト/参考文献	新しい保育講座 9 保育内容「環境」		
評価の方法や基準	レポート（30%）、定期試験（70%）		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○
実務経験	保育士・幼稚園教諭・保育教諭		
実務経験の活かし方	保育現場での具体的な保育実践を参考にしながら授業を展開していく		

履修上の 注意事項	グループワークやロールプレーでは、各自の積極的な意見や行動を求める。
--------------	------------------------------------

授業科目	環境（指導法）スクーリング	単位／時間	1 単位/15時間
開講学科等	子ども未来学科1年	担当教員	岡田 慶子
授業の目的・テーマ	実際の保育現場での環境を見て触れることで、園で設定されている環境の必要性和意味を知る。 自然環境を使った製作の考案		
授業の到達目標	実際の保育現場を体験することで、家庭や社会とは違った子どものための環境について考えられるようになる。身近な自然物を保育に取り入れる。		
授業の計画	1	現場の環境を体験する(自然物収集)	
	2	〃	
	3	〃	
	4	自分たちが見て回った環境を図としてまとめる(グループワーク)	
	5	〃	
	6	図の中に気づきや発見を書き込んでいく(グループワーク)	
	7	〃	
	8	グループ発表	
	9	季節の自然物を使った製作の計画を立てる	
	10	〃	
	11	季節の自然物を使った製作をする	
	12	〃	
	13	季節の自然物を使った遊びの計画を立てる	
	14	〃	
	15	遊びの実践を行う・まとめ	
授業の方法	講義、視聴覚教材、グループワーク、実習（実技）		
テキスト/参考文献	新しい保育講座9 保育内容「環境」		
評価の方法や基準	レポート（70%）、実習（30%）		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○
実務経験	幼稚園教諭・保育士・保育教諭		
実務経験の活かし方	保育現場での具体的な保育実践を参考にしながら授業を展開していく		

履修上の 注意事項	グループワークやロールプレーでは、各自の積極的な意見や行動を求める。
--------------	------------------------------------

授業科目	健康（指導法）（スクーリング）	単位／時間	1／15
開講学科等	子ども未来学科1年	担当教員	神家 美穂
授業の目的・テーマ	幼稚園教育要領や保育所保育指針に示される「ねらい」「内容」などの「健康」領域の構造を理解する。		
授業の到達目標	「健康」に関する保育内容（①運動遊び ②基本的生活習慣 ③健康・安全）について理解を深め保育者としての的確な援助が行える指導法を習得する。		
授業の計画	1	< 1 日目 >	
	2	健康の概念（健康観の変遷、WHO, 「健康」定義）	
	3	体力の概念（体力の構成要素）	
	4	幼稚園教育要領における「健康」領域の「ねらい」「内容」	
	5	保育所保育指針における健康及び安全の確保	
	6	認定こども園教育・保育要領 まとめの課題	
	7		
	8	< 2 日目 >	
	9	安全管理と安全指導（環境設定、動線の配慮）	
	10	運動時に多い怪我の応急処置	
	11	生活リズム（栄養・運動・休養）に関する指導法	
	12	園外活動の意義と指導法	
	13	まとめの課題（園外活動における指導計画の作成）	
	14		
	15		
	16		
	17		
	18		
	19		
	20		
	21		
	22		
	23		
	24		
	25		
授業の方法	講義		
テキスト/参考文献	内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領・幼稚園教育要領・保育所保育指針」フレーベル館 生涯スポーツ・健康科学（近畿大学九州短期大学通信教育学部編） 保育と幼児期の運動遊び（萌文書林）		
評価の方法や基準	まとめの課題レポート（40％）園外保育における指導計画の作成（60％）		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○
実務経験	認定こども園、保育園において体育講師として乳幼児の体育指導を担当		
実務経験の活かし方	現在の乳幼児の指導経験を活かした具体的な健康の指導・援助法についての講義を行う。		

履修上の 注意事項	なし
--------------	----

授業科目	人間関係（指導法）（スクーリング）	単位／時間	1 単位 / 15 時間
開講学科等	子ども未来学科 1 年生	担当教員	山下 昌世
授業の目的・テーマ	領域『人間関係』より子どもを取り巻く人間関係の現状を把握し、支援が必要なポイントを把握する。また、発達過程に応じた人との関わりについて考え、子どもの成長と向き合う。		
授業の到達目標	領域『人間関係』に関する知識を得、子ども個人の成長と、仲間集団の成長との双方に配慮しながら具体的な指導を行う実践力の基礎を培う。		
授業の計画	1	「幼児と人間関係」 学習ガイダンス	26
	2	保育内容の「人間関係」とは	27
	3	子どもを取り巻く社会の状況	28
	4	子どもを取り巻く社会から見る現代の子ども	29
	5	自分達の人間関係を見つめる	30
	6	子どもの発達と人間関係	31
	7	愛着形成の理論と実際	32
	8	子どもの自立心	33
	9	子どもの自己主張と自己発揮	34
	10	子どものいざこざ・トラブル	35
	11	共感・思いやり	36
	12	道徳性・規範意識	37
	13	コミュニケーション能力	38
	14	個と集団の育ち（協同性を育む）	39
	15	まとめ	40
	16		41
	17		42
	18		43
	19		44
	20		45
	21		46
	22		47
	23		48
	24		49
	25		50
授業の方法	一斉授業・レポート		
テキスト/参考文献	対話的・深い学びの保育内容 人間関係（萌文書林）		
評価の方法や基準	学習した事例内容からレポート試験、平素の学習態度（出席状況を含む）		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○
実務経験	幼稚園教諭		
実務経験の活かし方	幼児教育現場での実際の事例を用いて具体的説明による理解や、これまでの専門学校・短大での教員歴を活かした授業を通して専門職としての向上を目指す学生を育成する。		

履修上の 注意事項	求められた意見に積極的に答え、学習意欲を高める。
--------------	--------------------------

授業科目	教育原理	単位／時間	2／30
開講学科等	子ども未来学科1年	担当教員	津江 美和
授業の目的・テーマ	将来子どもを教育する者として、教育の意義、教育制度、教育に関する法律、教育思想などについて学んでいく。		
授業の到達目標	教育原理での学びを通して、教育に携わる者の使命や責任、論理を自覚する。日本の学校教育の優れた面と課題とについて、各自の考察を深める。		
授業の計画	1	教育原理とは	26 連携と交流 学校評価 アカウンタビリティ
	2	教育をめぐる課題 日本国憲法前文	27 諸外国の学校制度
	3	教育の目的	28 複線型学校体系 単線型学校体系 分岐型学校体系
	4	目的と目標 教育基本法	29 教育者としての自己
	5	教育思想の歴史	30 幼稚園教員の資質向上について
	6	古代ギリシャ 西洋近世	31
	7	教育観	32
	8	教育理念 コメニウス～モンテッソーリ	33
	9	教育課程	34
	10	カリキュラム 教育基本法 学校教育法	35
	11	子どもの権利	36
	12	基本的人権 日本国憲法 子どもの権利条約	37
	13	評価	38
	14	指導要領 幼稚園教育要領	39
	15	教育制度	40
	16	公務員 教育権 日本国憲法第26条	41
	17	教員の専門性	42
	18	教育基本法第9条 教育公務員特例法	43
	19	生涯学習社会	44
	20	成人教育国際会議 教育振興基本計画	45
	21	幼児教育制度の変化	46
	22	農村部の育児習俗 幼稚園と保育所の歴史	47
	23	指導計画	48
	24	各園における教育課程 長期と短期計画	49
	25	地域と学校	50
授業の方法	講義形式であるが、学生の意見発表の場も設けたい。		
テキスト/参考文献	「教育原理 保育実践への教育学的アプローチ」 広田照幸 塩崎美穂		
評価の方法や基準	期末試験（80％）と学習態度（意見発表や考察記述や家庭学習：20％）		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する。			○
実務経験	小学校教諭、幼稚園教諭、カウンセラー等		
実務経験の活かし方	学校という場の社会的あり方について、事例から解説する。		

履修上の 注意事項	各自にとって初見の専門用語等を主体的に調べ、学習に生かしてほしい。
--------------	-----------------------------------

授業科目	造形表現（指導法）（授業45時間）		単位／時間	1 / 4 5
開講学科等	子ども未来学科1年		担当教員	松田雅子
授業の目的・テーマ	一般教養的な基礎を指導した後、指人形制作や、絵本制作などを通じて、表現することの楽しさや実際の保育の現場で使える様々な技法を体験。自分で創作した絵本の読み聞かせや、オリジナルの指人形制作のほか、表現技法の幅を広げるため、作品鑑賞も体験してもらう。			
授業の到達目標	ものづくりを通じて技術指導だけでなく、指導者側の豊かな造形表現、ボキャボラリー、コミュニケーション能力を育てることを到達目標にしたい。			
授業の計画	1	①自己PR誌作成	26	・下描き
	2	初めて対面する学生達と、互いを知り	27	・制作
	3	交流を深める。	28	〃
	4	②現場で遊べる様々な造形表現を体験	29	〃
	5	・フロッタージュ	30	〃
	6	・デカルコマニー	31	〃
	7	・ドリッピング	32	・オリジナル絵本 読み聞かせ発表会
	8	・マーブリング	33	〃
	9	・スタンピング	34	実習造形報告
	10	・スクラッチ・コラージュ他	35	・実習先で体験・制作、目にした造形作品を
	11	③色彩指導	36	クラス全員の前で報告、発表、
	12	・色相環・トーン表などを用いて	37	その制作方法を学び合う。
	13	補色・同系色などの色彩理論を指導	38	〃
	14	・暖色系・寒色系で魚を表現する	39	〃
	15	平面構成によって色の感情を指導	40	課外実習（高知県美術展覧会日程に合わせる）
	16	・指人形制作	41	・高知県美術展覧会見学
	17	〃	42	（高知市文化プラザかるぽーと）
	18	〃	43	〃
	19	幼児造形の原理（映像を通じて）	44	振り返り
	20	〃	45	合評会
	21	手作り絵本制作	46	
	22	・たんたん画（技法の一例として）	47	
	23	〃	48	
	24	・様々な絵本に触れる	49	
	25	・お話作り	50	
授業の方法	子どもの姿が見える制作を通じて、必要なところで効果的に理論を配していけるよう指導			
テキスト/参考文献	近畿大学九州短期大学 造形表現（指導法） モーネ工房 こども寺子屋			
評価の方法や基準	創作の意欲、発想、態度、理論の理解、将来こどもと接する時のコミュニケーション能力。			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				○
実務経験	児童心理治療施設、こどもお絵描き教室を含む芸術指導歴30余年。新技法習得のため、ワークショップにも積極的に参加。執筆、音楽、映像、食育など、ジャンルにこだわらない様々な表現活動を展開中。			
実務経験の活かし方	実務経験におけるネットワーク作りを大切にし、こども達の心を育むものづくりの楽しさ、感動が、将来の指導者を通じてこども達に少しでも伝わるよう、アイデアを活かしている。			

履修上の 注意事項	食・睡眠時間の確保。生活の改善。
--------------	------------------

授業科目	造形表現（指導法）スクーリング		単位／時間	1 / 15
開講学科等	子ども未来学科1年		担当教員	松田雅子
授業の目的・テーマ	この講義が、1年次の学生と最初に顔を合わせる講義となる。そのため、様々な素材や表現方法を通して自己を表現する楽しさを知り、幼児の造形表現への理解を深められるテーマを選んだ。造形表現が持つ、感動と驚きをスタートとしたい。			
授業の到達目標	表現者として主体的に取り組むことで、豊かな創造性を育み、必要な援助と成長を見守れる保育者の育成と実践的造形教育指導の習得を目指す。			
授業の計画	1	■折り紙研究	26	
	2	魚、鳥、花、動物など	27	
	3	テーマを決めて、折り紙作品を5つ以上制作	28	
	4	■背景を加えて平面構成	29	
	5	色鉛筆、クレヨンなど、折り紙の色を	30	
	6	活かせる画材を用いて背景を作る	31	
	7	■合成、平面構成	32	
	8	■昨日と違うテーマの折り紙研究	33	
	9	魚、鳥、花、動物など	34	
	10	折り紙作品を5つ以上制作	35	
	11	■背景を加えて平面構成	36	
	12	色鉛筆、クレヨンなど、折り紙の色を	37	
	13	活かせる画材を用いて背景を作る	38	
	14	■合成、平面構成	39	
	15	■合評会	40	
	16		41	
	17		42	
	18		43	
	19		44	
	20		45	
	21		46	
	22		47	
	23		48	
	24		49	
	25		50	
授業の方法	自己紹介をした後、様々な技法を体験してもらう。自由な表現と真逆な平面構成も体験する。			
テキスト/参考文献	これまでの本校学生の参考作品集 モーネ工房 こども寺子屋			
評価の方法や基準	創作の意欲、発想、態度、理論の理解、将来こどもと接する時のコミュニケーション能力。			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				○
実務経験	児童心理治療施設、こどもお絵描き教室を含む芸術指導歴30余年。新技法習得のため、ワークショップにも積極的に参加。執筆、音楽、映像、食育など、ジャンルにこだわらない様々な表現活動を展開中。			
実務経験の活かし方	実務経験におけるネットワーク作りを大切にし、こども達の心を育むものづくりの楽しさ、感動が、将来の指導者を通じてこども達に少しでも伝わるよう、アイデアを活かしている。			
履修上の注意事項	食・睡眠時間の確保。生活の改善。			

授業科目	音楽表現（指導法）	単位／時間	1 単位/ 1 5 時間
開講学科等	子ども未来学科 1 年	担当教員	岡田 慶子
授業の目的・テーマ	「表現」領域のなかの保育内容である表現あそびから、音楽表現に関するあそびについて保育者の指導・援助の在り方を考える。		
授業の到達目標	幼稚園教育・保育の領域「表現」に関するねらい及び内容、全体構造を理解する。また、音楽表現の観点から幼児の発達や学びの課程を理解し、実践的な指導法を身に付けるために必要な基礎的な知識、技能を習得する。		
授業の計画	1	教育要領・保育指針における領域「表現」	
	2	幼児と音楽との関わり、幼児への指導法、保育者の指導上の留意点	
	3	〃	
	4	幼児の理解と評価	
	5	音楽遊びの教材・情報収集	
	6	〃	
	7	音楽表現あそび(手あそび・歌遊び)	
	8	音楽表現あそび(手あそび・歌遊び)	
	9	表現あそびの指導計画について	
	10	表現あそびの指導案作成	
	11	模擬保育発表及び指導・援助についての振り返	
	12	〃	
	13	〃	
	14	様々な素材を使った音楽表現あそび	
	15	〃	
	16		
	17		
	18		
	19		
	20		
	21		
	22		
	23		
	24		
	25		
授業の方法	講義、演習		
テキスト/参考文献	資料配布		
評価の方法や基準	授業への積極的参加態度（発表内容含） 6 0 % その他課題の記述内容 4 0 %		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○
実務経験	保育園(3年)・幼稚園(認定こども園)(21年)勤務		
実務経験の活かし方	幼稚園教諭として経験してきた、リズム遊びや手遊び表現遊びなどについて実例としてあげ、楽しい音楽として身近に感じられるようにしたい。		

履修上の 注意事項	筆記用具持参
--------------	--------

授業科目	言葉（指導法）SC		単位／時間	1 / 15
開講学科等	子ども未来学科1年		担当教員	川上 季衣
授業の目的・テーマ	・人間にとっての話言葉や書き言葉などの『言葉』の意義と機能について理解する。 ・言葉の発達について発達段階に沿って学び、保育者としての関わり方を知る。 ・保育における絵本の役割について学び、絵本の選び方、読み方の技術を身につける。			
授業の到達目標	言葉の発達について学び、子どもが豊かな表現を身につけ、想像する楽しさを広げるための保育者としての関わり方や技術を身につける。			
授業の計画	1	第6章絵本	26	
	2	〃	27	
	3	ビブリオバトル	28	
	4	〃	29	
	5	〃	30	
	6	第7章紙芝居	31	
	7	〃	32	
	8	ビブリオバトル	33	
	9	〃	34	
	10	ミニテスト	35	
	11	言葉遊び（かるた製作）	36	
	12	〃	37	
	13	〃	38	
	14	〃	39	
	15	かるたを楽しもう	40	
	16		41	
	17		42	
	18		43	
	19		44	
	20		45	
	21		46	
	22		47	
	23		48	
	24		49	
	25		50	
授業の方法	座学 グループワーク 実技（絵本を選ぶ・絵本を読む）製作製作			
テキスト／参考文献	近畿大学九州短期大学 「幼児と言葉」			
評価の方法や基準	実技（50%） レポート、製作（30%） 授業中の参加の様子（質問、発表など）（20%）			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				○
実務経験	保育所 幼稚園 認定こども園			
実務経験の活かし方	言葉の発達に対する知識と子どもと豊かにコミュニケーションをとるための工夫や技術について事例を交えつつ授業を行う			

履修上の 注意事項	図書館の利用カードを作成し、実際に絵本を選び、借りたものを読むという実技を行う
--------------	---

授業科目	社会福祉		単位／時間	2単位／30時間
開講学科等	子ども未来学科 1年		担当教員	柴岡 由絵
授業の目的・テーマ	福祉専門職として必要な社会福祉に関する体系的な理論と技術を学ぶ。			
授業の到達目標	社会福祉に関する法制やサービスの概要を理解し、現代社会が抱える福祉課題に対して、どのような支援が行われているのかについて理解を深め、考察していく。			
授業の計画	1	社会福祉とは ①	26	社会福祉施設の役割 ④
	2	社会福祉とは ②	27	社会福祉を担う人々
	3	日本の社会福祉の歴史 ①	28	ソーシャルワークの目的と方法
	4	日本の社会福祉の歴史 ②	29	社会福祉をめぐる課題
	5	社会福祉制度と社会福祉を展開する組織 ①	30	まとめ
	6	社会福祉制度と社会福祉を展開する組織 ②	31	
	7	児童福祉 ①	32	
	8	児童福祉 ②	33	
	9	障害者福祉 ①	34	
	10	障害者福祉 ②	35	
	11	高齢者福祉 ①	36	
	12	高齢者福祉 ②	37	
	13	介護保険制度と専門職の役割 ①	38	
	14	介護保険制度と専門職の役割 ②	39	
	15	低所得者福祉 ①	40	
	16	低所得者福祉 ②	41	
	17	地域福祉 ①	42	
	18	地域福祉 ②	43	
	19	医療福祉 ①	44	
	20	医療福祉 ②	45	
	21	精神保健福祉 ①	46	
	22	精神保健福祉 ②	47	
	23	社会福祉施設の役割 ①	48	
	24	社会福祉施設の役割 ②	49	
	25	社会福祉施設の役割 ③	50	
授業の方法	講義・グループワーク			
テキスト/参考文献	「コメディカルのための社会福祉概論」 講談社			
評価の方法や基準	・ 考查点(80%) 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考查を実施する。 ・ 平常点(20%) 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				○
実務経験	児童養護施設保育士 社会福祉協議会ボランティアコーディネーター 介護老人福祉施設生活相談員 居宅介護支援事業所介護支援専門員 高齢者施設管理者・FM（在宅）			
実務経験の活かし方	各テーマについて講義を行ったあと、事例等を紹介し、意見交換を行いながら理解を深めていく。			

履修上の 注意事項	児童福祉の分野を軸に、社会保障制度、福祉サービスについて学ぶ。社会人なり就労することで関わる分野であり、自分・家族事として捉えていくこと。
--------------	---

授業科目	音楽（理論）	単位／時間	1 単位/ 1 5 時間
開講学科等	子ども未来学科 1 年	担当教員	大野 美寿鈴
授業の目的・テーマ	歌うこと・ピアノを弾くことに於いて先ずは読譜力が必須である。その為の基礎となる音楽理論を学ぶ。		
授業の到達目標	幼児と音楽表現・音楽表現技術の曲が自主的に学習出来て弾き歌いのレパートリーを増やす。		
授業の計画	1	第 1 章 音	26
	2	第 2 章 楽譜（その 1）	27
	3	〃	28
	4	第 3 章 楽譜（その 2）	29
	5	〃	30
	6	第 4 章 音程	31
	7	〃	32
	8	第 5 章 楽譜（その 3）	33
	9	第 6 章 音階と調	34
	10	〃	35
	11	第 7 章 和音	36
	12	〃	37
	13	第 8 章 楽式	38
	14	第 9 章 演奏	39
	15	まとめ・テスト	40
	16		41
	17		42
	18		43
	19		44
	20		45
	21		46
	22		47
	23		48
	24		49
	25		50
授業の方法	講義・実践・確認テスト		
テキスト/参考文献	音楽（理論）・音楽（理論）レポート設題集・その他		
評価の方法や基準	テスト・出席率・授業態度		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○
実務経験	高等学校（音楽科）・短期大学（幼児教育科）・専修学校等での長年に至るピアノ指導と演奏活動		
実務経験の活かし方	音楽知識ゼロの学生にも分かり易く指導し読譜力が出来て歌ったり弾いたりすることが自力で学習出来るように導く。理論の必要性を認識させる。		
履修上の注意事項	欠席のないように。講義は集中して受け、もし理解出来ないことがあればその時間に質問して解決させて確認テストで理解度を再確認してい事。読譜力upへ。		

授業科目	劇あそび（指導法）	単位／時間	1 / 15
開講学科等	子ども未来学科	担当教員	瀬川 佳津江
授業の目的・テーマ	基本ステップ、リズムダンス、模倣表現、自由表現など、動きのリズムを中心とした活動を展開。子どもの持つ豊かな感性・表現力を引き出すための指導法・援助法を体得する。		
授業の到達目標	子どもの表現を育てる実践力と指導法を身に付ける。		
授業の計画	1	ウォーミングアップ（心と体をほぐすため	26
	2	音で遊びながら表現力を身に付ける	27
	3	ねらい 課題提示	28
	4	指導者の運びで動く	29
	5	イメージと動きをつなぐ	30
	6	（動く→書く→話し合う）	31
	7	小さな動きから大きい動きへ	32
	8	まねっこから自分の動きへ	33
	9	友達（仲間）との関わりを大切にグルー	34
	10	さらにイメージを広める	35
	11	創作	36
	12	各グループ内で発表（個々の表現力向上）	37
	13	感想 まとめ 意見交換	38
	14	グループ発表 評価	39
	15	初心者向きヒップホップ系のダンス（創作応用）を振付師の指導で踊る	40
	16		41
	17		42
	18		43
	19		44
	20		45
	21		46
	22		47
	23		48
	24		49
	25		50
授業の方法	実技実践		
テキスト/参考文献	なし		
評価の方法や基準	授業意欲・態度		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○
実務経験	体操競技ジュニア大会選手指導・高知国体式典振り付け指導・子どもミュージカル指導		
実務経験の活かし方	子どもの表現や動きから、内面（心）を読み取り、安定、不安定に寄り添っていく。		

履修上の 注意事項	動きやすい服装（ジャージ上下）シューズ タオル、水分各自持参 筆記用具持参
--------------	---------------------------------------

授業科目	教育課程総論		単位／時間	2 単位 / 30 時間
開講学科等	子ども未来学科 1 年		担当教員	徳弘 美穂
授業の目的・テーマ	幼児教育の教育課程について、その全容を学習し、幼児教育の本質について理解する。 テーマ：教育課程は各園や幼児の実態に応じて編成され展開することを理解する。			
授業の到達目標	保育所・幼稚園などの現場において、目の前の子どもの姿から興味・関心にそって、自ら考え指導計画を作成できる力がつくことを目指す。			
授業の計画	1	「教育課程総論」 学習ガイダンス	26	指導計画の作成③
	2	保育における計画の意義	27	指導計画の作成④
	3		28	小学校との接続
	4	日本におけるカリキュラムの基礎理論	29	現代の課題を踏まえて
	5		30	まとめ
	6	子ども理解に基づく保育の循環	31	
	7		32	
	8	保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の性格と位置づけ・改定（訂）内容	33	
	9		34	
	10		35	
	11	幼稚園の教育課程の編成の基本原理と方法	36	
	12		37	
	13	保育所・認定こども園等の全体的な計画の作成の基本原理と方法	38	
	14		39	
	15	幼稚園指導計画の作成	40	
	16		41	
	17	保育所・認定こども園の指導計画の作成	42	
	18	保育の評価	43	
	19		44	
	20	指導計画の作成	45	
	21	教育課程編成の手順	46	
	22	「指導」の意義	47	
	23	指導計画の意義	48	
	24	指導計画の作成①	49	
	25	指導計画の作成②	50	
授業の方法	一斉授業・班学習（討議、発表、レポート）			
テキスト/参考文献	教育・保育カリキュラム論（中央法規）・あたらしい幼児教育課程総論（同文書院）・幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説			
評価の方法や基準	筆記試験、レポート、意見発表、平素の学習態度（出席状況を含む）			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				○
実務経験	幼稚園・保育園で保育者として勤務			
実務経験の活かし方	保育現場での具体的な保育実践を参考にしながら授業を展開していく			

履修上の 注意事項	学習内容が理解できるようにノート作成方法も学ぶ。
--------------	--------------------------

授業科目	教職概論		単位／時間	2 単位/ 3 0 時間
開講学科等	子ども未来学科 1 年		担当教員	佐藤 章
授業の目的・テーマ	教育とは何か、教師（保育者）としての資質能力、教師の歴史、子どもに対する指導・支援の方法、カウンセリングマインド、教師の職務内容を学び、実践で生かせるようになる。			
授業の到達目標	①教師（保育者）としての資質・能力、適性を認識し、その資質を身につけるために学びを続け、実践で生かせるようになる。②教育の歴史（幼児教育を含む）、教育思想を学び、現在の幼児教育、保育がどのようにして生まれたかを知り、それらを踏まえた保育実践ができるようになる。③現在行われている幼児教育（保育）の実践方法を学び、現場で適切な指導、援助ができるようになる。④現在学校教育での取り組み（授業改善、カリキュラムマネジメント、教科担任制、カウンセリングマインド、特別支援教育、グローバル教育、ICT活用等）を学び、幼保・小の連携に役立てることができるようになる。⑤教育に関する法令、国の新しい施策や教育改革の動きを理解し、教師（保育者）に求められる役割や社会的意義を認識できるようになる。			
授業の計画	1	第 1 章教育とは何か	26	第11章教育改革とこれからの教師 § 2 の 2・3
	2	第 2 章教職とは何か § 1、 § 2	27	第12章教職の専門性と研修 § 1 の 1～3
	3	第 2 章教職とは何か § 3	28	第12章教職の専門性と研修 § 1 の 4～6
	4	第 3 章日本における教師の歴史 § 1、 2	29	第12章教職の専門性と研修 § 2
	5	第 3 章日本における教師の歴史 § 3～5	30	まとめ
	6	第 4 章現代社会の子ども § 1、 2	31	
	7	第 4 章現代社会の子ども § 3、 4	32	
	8	第 5 章幼稚園・保育所・認定こども園の生活と遊び § 1 クラス担任の一日と一年の 1・2	33	
	9	第 5 章幼稚園・保育所・認定こども園の生活と遊び § 1 の 3・4	34	
	10	第 5 章 § 2 幼稚園・保育所・認定こども園の遊びの 1・2	35	
	11	第 5 章 § 2 の 3・4	36	
	12	第 5 章 § 2 の 5・6	37	
	13	第 6 章小学校での学習と専科教員 § 1	38	
	14	第 6 章小学校での学習と専科教員 § 2	39	
	15	第 7 章学校にかかわりをもつ人々 § 1、 2	40	
	16	第 7 章学校にかかわりをもつ人々 § 3	41	
	17	第 8 章カウンセリングマインド § 1、 2	42	
	18	第 8 章カウンセリングマインド § 3	43	
	19	第 9 章教師をめぐる新しい動き § 1	44	
	20	第 9 章教師をめぐる新しい動き § 2	45	
	21	第10章教師をめぐる法律 § 1	46	
	22	第10章教師をめぐる法律 § 2・3	47	
	23	第10章教師をめぐる法律 § 4	48	
	24	第11章教育改革とこれからの教師 § 1	49	
	25	第11章教育改革とこれからの教師 § 2 の 1	50	
授業の方法	一斉講義形式、グループワーク等			
テキスト/参考文献	古橋和夫編『新訂教職入門』 萌文書林1900円＋税			
評価の方法や基準	レポート50%、試験50%			
実務経験のある教員による授業科目の場合、 右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				○
実務経験	高知県立高等学校社会科教員（倫理、現代社会、政治・経済、日本史、世界史、地理）、徳島文理大学教員（倫理学、教職科目）			
実務経験の活かし方	現在教育現場で進められている、チーム学校や授業方法の工夫・改善、教育改革の流れを授業の説明の中で伝えていきたい。			

履修上の 注意事項	①教科書、講義レジュメ、ノート、配付資料は毎時間持参して下さい。②グーグルクラスルームを活用します。毎回講義の出席確認と振り返り、必要に応じて、講義レジュメ、レポート、確認問題等の様式送付や週の間に連絡事項がある場合にも送らせてもらいます。またレポートも頻繁に出してもらいます。
--------------	---

授業科目	親学	単位／時間	1 / 15
開講学科等	子ども未来学科 1 年	担当教員	岡田 慶子
授業の目的・テーマ	近年顕著である少子化や核家族化によって親子関係は大きく変化し、親子の密着や過干渉、また逆に育児放棄などが深刻な問題となって現れています。「親学」はこうした問題にも対応するとともに、学んだ人が「親学」を実践し、自らの成長を、子どもに、学校に、地域にと照射していくことによって、社会をよりよい方向へ変えていくことを目指すことを、目標とする。		
授業の到達目標	親がすべき最も大事な「親自身が変わり、成長しなければならない」＝主体変容の心を身に付ける。		
授業の計画	1	親学とは ◎親学の必要性	26
	2	◎親学の理念と基本	27
	3	◎親学の目指すもの	28
	4	親学の基本的な考え方 ◎親について	29
	5	◎子どもについて	30
	6	◎家庭・家族について	31
	7	◎子育てについて	32
	8	親学の実践 ◎親自身が成長するために	33
	9	◎子どもの人間性をはぐくむために	34
	10	◎愛のある家庭をつくるために	35
	11	子どもの発達段階ごとの特徴と親のかかわり方 ◎胎児期・乳児期	36
	12	◎幼児期前期	37
	13	◎幼児期後期	38
	14	◎児童期・思春期	39
	15	まとめ	40
	16		41
	17		42
	18		43
	19		44
	20		45
	21		46
	22		47
	23		48
	24		49
	25		50
授業の方法	講義 グループ学習		
テキスト/参考文献	「親学」の教科書 一親が育つ子どもが育つーPHP親学研究会[編]		
評価の方法や基準	出席率 授業態度 提出物 試験		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○
実務経験	保育園・幼稚園(認定こども園)勤務		
実務経験の活かし方	幼稚園教諭として経験してきた、子ども達とのかかわり方、保護者とかかわり方など体験を実例としてあげ、幼児教育が学生たちに一層、身近に感じられるようにしたい。		

履修上の 注意事項	
--------------	--

授業科目	保育内容総論		単位／時間	1 / 15
開講学科等	子ども未来学科1年		担当教員	岡田 慶子
授業の目的・テーマ	『保育所保育指針解説書』を中心に、保育をめぐる基礎知識を習得し、基本原理を理解することを目指す。同時に、基本原理を踏まえ、指導計画を立案し、実践する力を養う。講義形式の他、グループワークや受講生同士の議論を通して、保育実践を構築し、批判的に検討することができる力の素地を培う。			
授業の到達目標	①保育内容の史的展開を踏まえ、保育所保育や子どもたちの育ちをめぐる現状と課題について説明できる。 ②保育所保育の役割、環境を通して行う保育、保育における遊びの位置づけなどの基本原理について説明でき、実践に反映できる。 ③保育の総合性を踏まえ、指導計画を立案し、実施することができる。 ④子どもの最善の利益について複眼的に思考し、保育実践を批判的に検討することができる。			
授業の計画	1	保育所保育指針に基づく保育の全体構造	26	
	2	保育所保育指針に基づく保育内容の理解①養護	27	
	3	保育所保育指針に基づく保育内容の理解②教育	28	
	4	保育内容の歴史的変遷とその社会的背景	29	
	5	子どもの発達の特性と保育内容	30	
	6	養護と教育が一体的に展開される保育	31	
	7	子どもの主体性を尊重する保育	32	
	8	環境を通して行う保育	33	
	9	生活や遊びによる総合的な保育	34	
	10	個と集団の発達をふまえた保育	35	
	11	家庭や地域等との連携をふまえた保育	36	
	12	小学校との連携・接続をふまえた保育	37	
	13	長時間の保育	38	
	14	特別な配慮を必要とする子どもの保育	39	
	15	多文化共生の保育	40	
	16		41	
	17		42	
	18		43	
	19		44	
	20		45	
	21		46	
	22		47	
	23		48	
	24		49	
	25		50	
授業の方法	講義、演習			
テキスト/参考文献	参考文献「保育内容総論」			
評価の方法や基準	出席状況、授業態度、筆記試験			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				○
実務経験	幼稚園教諭。保育士。保育教諭			
実務経験の活かし方	保育現場での具体的な保育実践を参考にしながら授業を展開していく			

履修上の 注意事項	
--------------	--

授業科目		児童文化	単位／時間		2 単位 / 30 時間
開講学科等		子ども未来学科 1 年	担当教員		川上 季衣
授業の目的・テーマ		児童文化の概念を理解するとともに、子どもたちが自ら文化をつくり出す基盤として欠かすことのできない言葉と、その言葉をもとに表現する力の大切さを重視し、どのようにすれば育むことができるのか考える。			
授業の到達目標		児童文化が何を意図して幼児教育の中に取り入れられたのかを理解するとともに、製作活動やさまざまな演習を通して自己の表現力を豊かにする。			
授業の計画	1	「児童文化」 学習ガイダンス	26	〃	
	2	①児童文化の世界を知ろう	27	〃	
	3	ことばと表現力を育む児童文化	28	おもちゃ	
	4	〃	29	〃	
	5	保育のなかで児童文化を考える	30	まとめ	
	6	〃	31		
	7	児童文化の歴史	32		
	8	〃	33		
	9	子どもの育ちと児童文化	34		
	10	〃	35		
	11	②児童文化財を保育に生かそう	36		
	12	わらべうた・あそびうた	37		
	13	〃	38		
	14	ことばあそび	39		
	15	〃	40		
	16	おはなし	41		
	17	〃	42		
	18	絵本と童話	43		
	19	〃	44		
	20	〃	45		
	21	紙芝居	46		
	22	〃	47		
	23	〃	48		
	24	シアタースタイルの児童文化	49		
	25	〃	50		
授業の方法		一斉授業・班学習（討議、発表、レポート）			
テキスト/参考文献		ことばと表現力を育む 児童文化（萌文書林）			
評価の方法や基準		実技・筆記試験、レポート、演習、平素の学習態度（出席状況を含む）			
実務経験のある教員による授業科目の場合、 右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					○
実務経験		保育士・幼稚園（認定こども園）勤務			
実務経験の活かし方		幼児教育現場での実際の事例を用いて具体的説明による理解や実践授業を通して専門職としての向上を目指す学生を育成する。			

履修上の 注意事項	講義および実技・演習に積極的に望み、授業内容を体得する。
--------------	------------------------------

授業科目	レッスンⅠ		単位／時間	2／60	
開講学科等	子ども未来学科1年		担当教員	川上 季衣 / 山下 昌世	
授業の目的・テーマ	音楽（器楽・声楽）での課題及び実習で使用する曲のピアノ及び弾き歌いの技術習得のためのレッスンを行う。				
授業の到達目標	保育現場で実践できるように、日々のレッスンのなかで、技術を習得する。				
授業の計画	1	目標の設定（スクーリングに向けて）	26	目標の確認④	
	2	器楽の進行のレッスンの補助	27		
	3		28		
	4		29		
	5	↓	30	↓	
	6	目標の確認①	31	目標の確認⑤	
	7	目標の到達のための補助と確認	32		
	8		33		
	9	↓	34		
	10	↓	35	↓	
	11	目標の確認②	36	目標の確認⑥	
	12	↓	37		
	13		38		
	14	↓	39	練習	
	15	↓	40	↓	
	16	目標の確認③	41	目標の確認⑦	
	17	↓	42		
	18		43		
	19	↓	44		
	20	↓	45	↓	
	21	目標の確認④	46	目標の確認⑧	
	22	↓	47		
	23		48		
	24		49		
	25	↓	50	↓	
授業の方法	個人レッスン 各自レッスン				
テキスト/参考文献	近畿大学九州短期大学 音楽ピアノ教本				
評価の方法や基準	出席状況（50%） 意欲（20%） 進捗状況（30%）				
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				○	
実務経験	幼稚園・保育園で保育者として勤務				
実務経験の活かし方	個別レッスンを行う				

履修上の 注意事項	テキスト、ヘッドフォン、筆記用具を持参。授業以外にも各自での練習に励むこと。
--------------	--

授業科目	レッスンⅠ	単位／時間	2／60
開講学科等	子ども未来学科1年	担当教員	川上 季衣 / 山下 昌世
授業の目的・テーマ	音楽（器楽・声楽）での課題及び実習で使用する曲のピアノ及び弾き歌いの技術習得のためのレッスンを行う。		
授業の到達目標	保育現場で実践できるよう、日々のレッスンのなかで、技術を習得する。		
授業の計画	51	目標の確認⑨	
	52		
	53		
	54		
	55		
	56	目標の確認⑩	
	57	スクーリング前のチェックを	
	58	含めたレッスン	
	59		
	60	目標の確認⑪	
	61		
	62		
	63		
	64		
	65		
	66		
	67		
	68		
	69		
	70		
	71		
	72		
	73		
	74		
	75		
授業の方法	個人レッスン 各自レッスン		
テキスト/参考文献	近畿大学九州短期大学 音楽ピアノ教本		
評価の方法や基準	出席状況（50％） 意欲（20％） 進捗状況（30％）		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○
実務経験	幼稚園・保育園で保育者として勤務		
実務経験の活かし方	個別レッスンを行う		
履修上の注意事項	テキスト、ヘッドフォン、筆記用具を持参。授業以外にも各自での練習に励むこと。		

授業科目		保育研究		単位／時間		1単位 30時間	
開講学科等		子ども未来学科 1 年		担当教員		川上 季衣	
授業の目的・テーマ		乳幼児期の成長発達や生活に即した「遊び」と「活動」の体験実践を通し、保育現場に生かせる知識や技術、豊かな感性を身に付ける。					
授業の到達目標		保育現場で生かせる知識や技術の習得					
授業の計画	1	実習用名札の製作	26	ペープサートの製作			
	2	〃	27	〃			
	3	〃	28	ペープサートの発表			
	4	〃	29	ペープサートの発表			
	5	〃	30	まとめ			
	6	〃	31				
	7	〃	32				
	8	〃	33				
	9	自己紹介カードの製作	34				
	10	〃	35				
	11	〃	36				
	12	〃	37				
	13	〃	38				
	14	〃	39				
	15	〃	40				
	16	自己紹介カードの発表	41				
	17	ペープサートの製作	42				
	18	〃	43				
	19	〃	44				
	20	〃	45				
	21	〃	46				
	22	〃	47				
	23	〃	48				
	24	〃	49				
	25	〃	50				
授業の方法		講義、実技					
テキスト/参考文献		なし					
評価の方法や基準		出席状況、授業態度、作品発表、作品提出					
実務経験のある教員による授業科目の場合、 右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する						○	
実務経験		幼稚園・保育園、認定こども園で保育者として勤務					
実務経験の活かし方		保育現場での「遊びや」「活動」を通して培った技術や技法を授業の中で伝えていく					
履修上の注意事項		なし					

授業科目		音楽[ピアノ]①		単位／時間		1／30	
開講学科等		子ども未来学科1年		担当教員		大野 美寿鈴	
授業の目的・テーマ		ピアノ音楽の基礎技術を学習し、実技を通して習得する。					
授業の到達目標		幼児と音楽表現の課題を終了し一年次のグレード試験の合格を目指す。					
授業の計画	1	(前期) オリエンテーション・講義→実技		26			
	2			27			
	3			28			
	4			29			
	5			30		↓	
	6			31			
	7			32			
	8			33			
	9			34			
	10			35			
	11			36			
	12			37			
	13			38			
	14			39			
	15			40			
	16	(後期)		41			
	17			42			
	18			43			
	19			44			
	20			45			
	21			46			
	22			47			
	23			48			
	24			49			
	25			50			
授業の方法		同質2グループで行う。電子ピアノを各自使用。講義と実技全体指導。個別指導。					
テキスト/参考文献		ピアノ教本（近畿大学九州短期大学）・リズムの基礎					
評価の方法や基準		実技試験・平常時の課題可否及び学習態度・出席率					
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					○		
実務経験		高等学校（音楽科）・短期大学（幼児教育科）・専修学校等での長年に至るピアノ指導と演奏活動					
実務経験の活かし方		ピアノ初心者にも丁寧にわかり易く導く 各自の資質と能力に応じた指導を心掛け、更なる成長を促す。					

履修上の 注意事項	最も重要な譜読力のもと実践を積み重ねる事で演奏の基礎力が出来る。従って段階的学習の必要性から欠席すること無く講義によく集中し、 <u>毎回与えられた課題を必ず毎日練習する事が大切である。</u>
--------------	---

授業科目	音楽[声楽]①	単位／時間	1 / 30
開講学科等	子ども未来科 1年	担当教員	大野 美寿鈴
授業の目的・テーマ	読譜力を身につけ音程とリズムを正確に歌う。そして次に表現をつけて歌う。童謡曲ではきちんとした日本語で楽しく歌う。		
授業の到達目標	課題曲を終了しスクーリングⅠの合格を目指す。		
授業の計画	1	幼児と音楽表現	26
	2	記録表	27
	3	1・2・3・4・5	28
	4	(個別チェック含む)	29
	5		30
	6		31
	7		32
	8		33
	9		34
	10		35
	11		36
	12		37
	13		38
	14		39
	15	音楽表現技術	40
	16	1・2・3・4・5・6	41
	17		42
	18		43
	19	課題曲復習	44
	20		45
	21		46
	22		47
	23		48
	24		49
	25		50
授業の方法	講義と実践・各自クラビノーバ使用		
テキスト/参考文献	近畿大学九州短期大学の音楽教本・ピアノ教本		
評価の方法や基準	実技試験・出席率・授業態度など		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○
実務経験	音楽大学音楽教室・高等学校(音楽科)・短期大学(幼児教育科)・専門学校講師及び演奏指導		
実務経験の活かし方	幅広い層の指導経験から初歩学生に分かり易く楽しく指導する。歌うことを通して音楽の楽しさを伝える。		
履修上の注意事項	歌は歌うことであって口ずさむことではないことを心して保育士を志している自覚を持って取り組むこと		

授業科目	乳児保育 I		単位／時間	2 / 30
開講学科等	子ども未来学科 1 年		担当教員	弘田 恵子
授業の目的・テーマ	○乳児保育の歴史的変遷を知り、乳児の育つ環境の重要性、乳児保育の役割や課題を知る。 ○保育士として必要な乳児保育の基本的知識を獲得する。 ○乳児期の心身の発達特徴を理解する。 ○演習を通して乳児の適切な援助方法、必要な道具の使い方等を修得する。			
授業の到達目標	○乳児は養育者や保育者に関わってもらうことによって育つ存在であることを知る。 ○乳児期の生活リズムや基本的生活習慣などの発達と援助、健康、安全について知る。 ○乳児の発達に即した保育内容と環境づくりを理解する。			
授業の計画	1	授業のねらい 乳児保育の理念・概念	26	長期的な指導計画と短期的な指導計画
	2	乳児保育の意義・目的と歴史的変遷	27	個別的な指導計画と集団の指導計画
	3	乳児保育等の支援をめぐる社会的状況	28	職員間の連携・協働
	4	保育所における乳児保育	29	保護者との連携・協働
	5	保育所以外の施設における乳児保育	30	地域等の連携・協働 まとめと確認
	6	家庭的保育等における乳児保育	31	
	7	家庭を取り巻く環境と子育て支援の場	32	
	8	3歳未満児の生活と環境	33	
	9	3歳未満児の遊びと環境	34	
	10	3歳以上児の保育に移行する時期の保育	35	
	11	発育・発達をふまえた保育者による援助やかかわり	36	
	12	発育・発達をふまえた保育における配慮	37	
	13	乳児保育の計画・記録・評価とその意義	38	
	14	演習・乳児保育の基本	39	
	15	子どもの生活の流れ(0歳児クラス)	40	
	16	子どもの保育環境(0歳児クラス)	41	
	17	子どもの援助の実際(0歳児クラス)	42	
	18	子どもの生活の流れ(1歳児クラス)	43	
	19	子どもの保育環境(1歳児クラス)	44	
	20	子どもの援助の実際(1歳児クラス)	45	
	21	子どもの生活の流れ(2歳児クラス)	46	
	22	子どもの保育環境(2歳児クラス)	47	
	23	子どもの援助の実際(2歳児クラス)	48	
	24	子どもの心身の健康等、安定のための配慮	49	
	25	集団での生活や環境に対する配慮	50	
授業の方法	講義・演習			
テキスト/参考文献	「はじめて学ぶ乳児保育」／ 保育所保育指針 授業中に配布するプリント及び冊子			
評価の方法や基準	授業への取り組み、態度(20%)・提出物(10%)・筆記試験(70%)により評価			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				○
実務経験	臨床経験、母乳育児相談室や母子衛生研究会、保育園での園長経験の中で、多くの母児と関わり、さまざまな面接相談も受けてきた。40年以上の実務経験有。			
実務経験の活かし方	長年にわたる、さまざまな援助が必要な子どもへの対応経験から、実践的な教育内容を展開でき、より具体的な指導を提供できる。			

履修上の 注意事項	・乳児と触れ合う機会を積極的に作ろう。 ・日頃より乳児に関する出来事に関心を持ち、さまざまな情報に目を向けよう。 ・前回までの授業内容については各自復習し理解しておこう。
--------------	---

授業科目	社会的養護Ⅰ		単位／時間	2／30
開講学科等	子ども未来学科Ⅰ年		担当教員	宮地 暁男
授業の目的・テーマ	社会的養護を必要とする子どもや保護者の現状について学び、社会的養護の意義と保育者としての役割について理解する。			
授業の到達目標	社会的養護とは何かについて、基本的な理解ができる。 施設養護および家庭の役割や機能について理解する。			
授業の計画	1	前期の授業内容オリエンテーション	26	里親制度と現状について
	2	社会的養護とは何か（基本理念）	27	ファミリーホームについて
	3	子どもの虐待①	28	実習を終えて（2年生からのメッセージ）
	4	子どもの虐待②	29	実習を終えて（2年生からのメッセージ）
	5	社会的養護の仕組み	30	社会的養護Ⅰまとめ
	6	社会的養護の歴史	31	
	7	措置を基本とする施設について①	32	
	8	措置を基本とする施設について②	33	
	9	子どもの人権擁護と社会的養護①	34	
	10	子どもの人権擁護と社会的養護②	35	
	11	社会的養護にかかわる専門職①	36	
	12	社会的養護にかかわる専門職②	37	
	13	家庭養護と施設養護①	38	
	14	家庭養護と施設養護②	39	
	15	社会的養護に関する社会的状況①	40	
	16	社会的養護に関する社会的状況②	41	
	17	被措置児童等の虐待防止の現状と課題①	42	
	18	被措置児童等の虐待防止の現状と課題②	43	
	19	社会的養護と地域福祉の現状と課題①	44	
	20	社会的養護と地域福祉の現状と課題②	45	
	21	高知県内における児童養護施設について①	46	
	22	高知県内における児童養護施設について②	47	
	23	児童養護施設における職員研修①	48	
	24	児童養護施設における職員研修②	49	
	25	児童養護施設における福利厚生について	50	
授業の方法	講義及び、演習			
テキスト/参考文献	図解で学ぶ保育「社会的養護Ⅰ」萌文書林			
評価の方法や基準	筆記試験及び、レポート提出（50%）、授業態度（出席状況を含む）（30%）、意欲、関心（20%）			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	○			
実務経験	児童養護施設における園長代理を1年間務める。社会福祉施設長資格認定講習終了 短期大学において、施設実習及び、子育て支援の科目を担当する。			
実務経験の活かし方	テキストの内容だけでなく、高知県内における児童養護施設等と学校、関係機関との連携による支援の実際について等具体的に伝えていく。			

履修上の 注意事項	
--------------	--

授業科目	保育実習指導Ⅰ（保育所）		単位／時間	2／30
開講学科等	子ども未来学科1年		担当教員	山下 昌世
授業の目的・テーマ	保育実習について理解をし、実習における心構えや日誌の書き方などを学ぶ。実習後には振り返りをし、それぞれの成果・課題を見つけ次へつなげていけるようにする。			
授業の到達目標	保育実習について学び、保育の理論・技術に興味・関心を持たす。			
授業の計画	1	保育実習の目的と意義	26	観察実習調査表他作成 オリエンテーションに向けた準備
	2	事前学習（保育所）資格について	27	
	3	実習事前に必要な単位	28	
	4	実習の準備	29	幼稚園観察実習について
	5	保育所について	30	
	6	保育士の役割	31	
	7	保育士との連携職員について	32	
	8	子ども理解について（0.1歳児）	33	
	9	子ども理解について（2歳児）	34	
	10	子ども理解について（3歳児）	35	
	11	子ども理解について（4.5歳児）	36	
	12		37	
	13	日誌の書き方および立案（設定保育）の構成について	38	
	14		39	
	15		40	
	16	オリエンテーションの内容（個人調査票他、書類準備）	41	
	17		42	
	18	オリエンテーションのまとめ	43	
	19	実習目標・課題設定	44	
	20	保育教材準備	45	
	21		46	
	22		47	
	23	実習振り返り	48	
	24		49	
	25	観察実習について	50	
授業の方法	講義			
テキスト/参考文献	『新訂 知りたいときにすぐわかる 保育所・幼稚園・児童福祉施設等 実習ガイド』、参考資料プリント配布			
評価の方法や基準	出欠席（30％）授業態度（20％）、試験（50％）の総合評価			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				○
実務経験	幼稚園教諭・高知福祉専門学校にて保育者論および保育/教育実習指導担当			
実務経験の活かし方	これまでに行かせた高知県の保育所実習について分析し、実習のノウハウを学生の指導に活かす。			

履修上の 注意事項	初めての実習に向けての不安を取り除きながら、実習生としての心構えを理解しながら受講する。
--------------	--

授業科目	保育実習Ⅰ（保育所）		単位／時間	2／90
開講学科等	子ども未来学科1年		担当教員	山下 昌世
授業の目的・テーマ	授業で学習してきた保育の理論や技術を基にして、実際に保育の現場に出て保育を経験することによって、それらが保育の実践と具体的にどのようなつながるかを体験し、保育技術の体得・向上・自分なりの保育観を確立していくために行う。			
授業の到達目標	保育実習について学び、保育実習の心構えを学ぶ。保育実習で、保育の理論・技術を実践するなかで、自分なりの保育観を培う。			
授業の計画	1	見学実習：実習を行う保育所の概要を知る	46	参加実習：実際に乳幼児に接し、担任の
		↓ 物的環境		↓ 保育者の補助的活動を行い
		↓ 地理的環境		↓ 保育を体験的に理解する。
		↓ 建物の構造 設備の配置		
		↓ 教材の状況		↓ 子どもとのかかわりを細かく
		↓ 人的環境		↓ 記録し、日誌に記入すること
		↓ 沿革と保育方針		↓ により、子どもへの理解を
		↓ 乳幼児の構成とクラス構成		↓ 深め、自分の保育を反省し、
		↓ 教職員の構成		↓ 翌日の実習につなげる。
		↓		
		観察実習：乳幼児の実態、保育者の援助		
		↓ 保育の流れについて理解する		
		↓		
		↓ 観察の視点		
		↓ 年齢別の発達の特徴		
		↓ 遊びの内容		↓
		↓ 遊びの変化		↓ 責任保育：保育者の立場を身をもって
		↓ 子ども同士の関わり		↓ 理解する。
		↓ 子どもの個性		↓ ◎部分保育
		↓		↓ 1日のうちで、ある部分的な
		↓ 保育者の仕事		↓ 活動を担当するもの
		↓ 年齢別のかかわり方		
		↓ 一人一人へのかかわり方		
		↓ 複数の子どもへのかかわり方		
	↓ 45	↓ 保育の展開、環境の工夫	↓ 90	↓ 実習のまとめ
授業の方法	実習			
テキスト/参考文献	『知りたいときにすぐわかる 幼稚園・保育所・児童福祉施設等 実習ガイド』			
評価の方法や基準	現場からの実習評価表による			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				○
実務経験	幼稚園教諭・高知福祉専門学校にて保育者論および保育/教育実習指導担当			
実務経験の活かし方	保育現場での具体的な保育実践を参考にしながら授業を展開していく			

履修上の 注意事項	なし
--------------	----